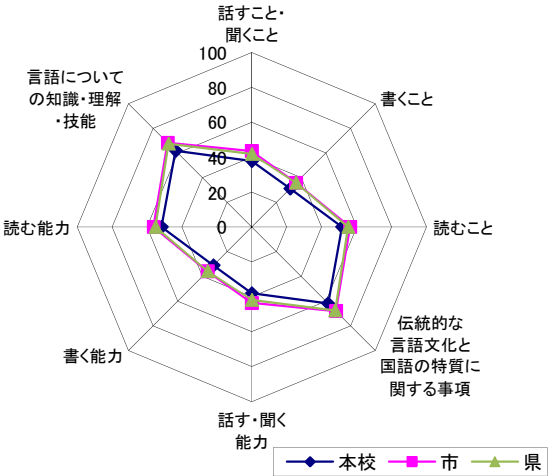


宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	37.9	43.5	41.8
	書くこと	31.1	35.9	35.8
	読むこと	51.7	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.8	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	37.9	43.5	41.8
	書く能力	31.1	35.9	35.8
	読む能力	51.7	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	61.8	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

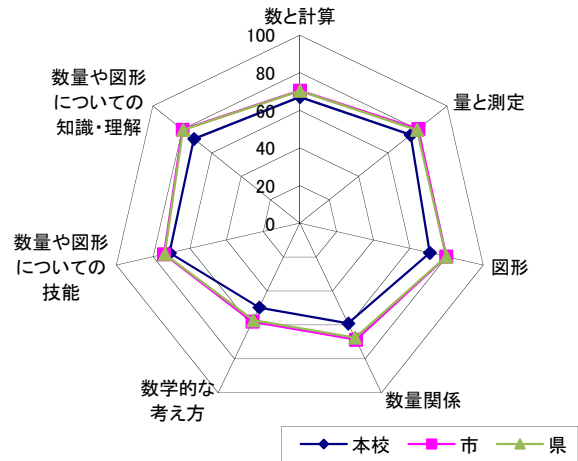
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率が37.9%で、県の平均を3.9ポイント下回った。 ○話の中心に気を付けて聞き、意見を述べているものについて、解答を選ぶ問題は県の平均より正答率が高かった。 ●話し合いにおいて、司会者の役割を理解し進行する方法を述べているものを選ぶ問題は正答率が県の平均を大きく下回った。 ●指示語が表している言葉を正しくとらえることに課題がある。	・普段の生活の中で、メモをとりながら重点をとらえて聞く機会を多くもたせる。 ・国語や話し合い活動を通して、司会の進め方や意見の述べ方について意識させ、身に付くように指導していく。 ・指示語が指している言葉を意識しながら文章を読む練習をさせる。
書くこと	平均正答率が31.1%で、県の平均を4.7ポイント下回った。 ●招待状に入れる文章を1つにまとめて記述する問題では、文章から必要な部分をさがし、書き抜いたりまとめることに課題が見られた。 ●話し合いを基に、招待状に付けたす文を記述する問題では、無回答の割合が82.4%と高く、文章を書くことに抵抗があったり書くスキルが身に付いていなかったりしている。	・書くことに慣れるため、連絡帳や自主学習を活用した一言日記等の指導を取り入れる。 ・普段の生活の中で、必然性のある書く場面を設定し、経験を増やすことで書くことへの抵抗を軽減できるようにする。
読むこと	平均正答率が51.7%で、県の平均を4.2ポイント下回った。 ○文章と図を関連づけて読む問題や、登場人物同士の関係や物語上での役割をとらえる問題では、県の平均とほぼ同じ正答率である。 ●国語辞典の使い方や叙述をもとに、登場人物の気持ちや性格などについてを読むことには課題がある。	・朝の学習での読書指導や毎日の音読を継続して指導・啓発していく。 ・既習内容の確認や読み取りの内容を含んだ家庭学習用のプリントを作成し、確実に取り組ませることで基本的な力を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が61.8%で、県の平均を5.7ポイント下回った。 ○漢字の読み書きについて特定の漢字については身に付いていると思われる。 ●簡単なローマ字による書き方や、漢字の読み書きにも課題が見られる。問題文を最後までよく読まずに解答している傾向があると思われる。	・新出漢字の学習では、筆順や部首などに意識をさせながら学習させ、漢字テストなどを用いて定着が図られるようにする。 ・家庭学習でも漢字練習に取り組めるような計画表を作成し、各自が自分で進められるように指導する。 ・ローマ字に触れる機会を意図的に準備し、復習の時間が多くとれるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.1	70.5	70.3
	量と測定	75.3	80.4	79.6
	図形	70.8	79.8	79.7
	数量関係	59.1	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	49.8	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	71.0	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	72.0	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

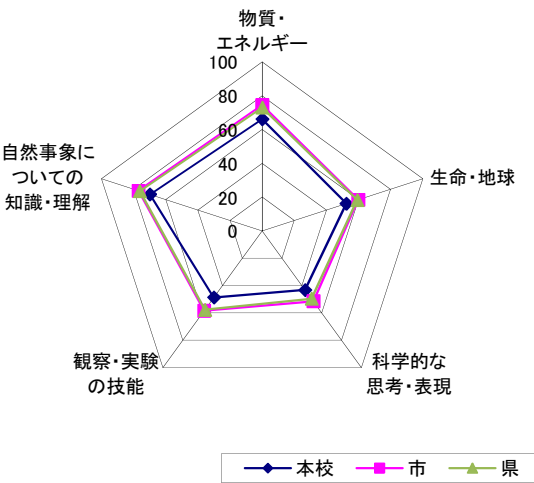
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が67.1%で、県の平均を3.2ポイント下回った。 ○3位数÷3位数、4位数÷4位数など多位数の加減算については正答率が県の平均とほぼ同じ正答率であり、概ね身に付いていると思われる。 ●数直線の目盛を読み取り、分数で表す問題では正答率が低く課題が見られる。 ●連続量の等分除の問題場面を表す線分図を完成する問題の正答率が低い。	・基本的な四則の計算については、朝の学習のドリル練習などを用いて継続的に取り組ませる。 ・数直線や線分図などに触れる機会を多くもたせる。
量と測定	平均正答率が75.3%で、県の平均を4.3ポイント下回った。 ○kmをmに換算する問題は正答率が高い。 ●時間の換算や一定時間前の時刻を求めるなどの問題の正答率が低い。 ●およそ1kgのものの正答を選択する問題は正答率が低い。体験を通して学習していく必要がある。	・数直線や線分図などに触れる機会を多くもたせる。 ・日常生活の中で時間や重さを意識しながら生活するように、指導していく。
図形	平均正答率が70.8%で、県の平均を8.9ポイント下回った。 ○与えられた1つの辺の続きをかくて正三角形を完成する作図の正答率は79.7%で、県の平均と比べるとやや低い概ね身に付いていると思われる。 ●半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める問題は正答率が55.9%と低かった。 ●円の直径を表す線分を選ぶ問題では県の平均と比べても低く、67.8%の正答率であった。	・ドリル学習などを通して、図形の基本的事項についての復習をさせる。 ・図形の作図をさせる機会を多くもたせる。
数量関係	平均正答率が59.1%で、県の平均を8.4ポイント下回った。 ○□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題では、正答率は52.5%だったが県の傾向とほぼ同じである。 ○棒グラフの1目盛の大きさを読み取る問題では正答率は88.1%で市の平均とほぼ同じである。 ●未知の数量を□として、数量関係を線分図に表したり、連続量の等分除の問題場面を表す線分図を完成させたりする問題など、問題文を読み取り、数字や式を使って表現する力が不足していることが考えられる。	・□を用いた式では、どの数字を求めたらよいのかをきちんと把握できるように、問題文に下線を引いたりテープ図にかいたりさせるように指導する。 ・文章問題を解く機会を多く設定する。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.2	74.5	72.9
	生命・地球	52.5	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	43.2	51.6	49.7
	観察・実験の技能	48.7	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	69.8	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率が66.2%で、県の平均を6.7ポイント下回った。 ○「ものの重さ」では、物は形を変えても重さが変わらないことや体積が同じでも重さが違うことなど、重さの性質を問う問題の正答率が高い。実験から体験と結び付けて考えることができたためと思われる。 ●「磁石の性質」では、磁石につけると磁石になるものがあったり、異極が引き合い、同極は退け合ったりするという性質について正答率が低く、理解に課題がある。 ●「電気の通り道」では、つなぎ方を答える問題や、豆電球のつき方から、箱の中の回路を推測する問題の正答率が低く、課題が見られた。	・基礎的知識の理解が不十分だった「磁石の性質」や「電気の通り道」の学習では、既習事項を再確認させ、関連分野の授業内でも言葉や内容を意識させるように繰り返し指導する。 ・思考・表現を求められる問題については、問題文や選択肢を正しく理解できるように、下線を引いたり文字を囲んだりしてから考えるように指導する。
生命・地球	平均正答率が52.5%で、県の平均を6.7ポイント下回った。 ○「昆虫と植物」で、チョウの幼虫と成虫の口の様子の違いを問う問題では正答率が80%だった。 ●方位磁針の適切な操作方法や温度計の正しい目盛りの読み取り方について課題がある。 ●影の向きが太陽の動きによって変わることは概ね理解しているが、日陰の位置の変化と植物の成長を考察し、考えを記述する問題では正答率が低く、課題が見られた。	・基礎的知識の理解が不十分だった「昆虫と植物」や「太陽と地面の様子」は、普段の生活の中で既習の学習内容と体験を関連させることで内容が身に付くようにさせる。 ・実験・観察の技能が不十分であった方位磁針や温度計については、改めて確認し他の単元や教科でも使う機会を設け、定着を図る。 ・思考・表現については、実験や観察を通して得た知識や考えを文章で表現するように、機会を作り、繰り返し指導をする。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は96.7%と高い。また、「学校の宿題は、自分のためになっている。」と回答した児童は98.3%である。今後も、適切な宿題の量と指導を検討しながら、意欲をもって取り組めるよう指導していきたい。

○勉強をしていて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがあると回答した児童は、83.3%と県平均より2.6%高く、学ぶことに興味をもっている児童は多い。また、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童は88.3%、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」とした児童は90.0%と多く、目標をもって学ぶ必要性については理解していると思われる。一人一人の疑問や思いに寄り添い、意欲を持続しながら学習に取り組めるような工夫をしていきたい。

○「家の人と学校のでできごとについて話をしている」と回答した児童は90.0%と高く、県平均よりも8.0%も上回っていることが分かる。「自分は家族の大切な一員だと思う」と回答した児童も91.5%と高いことから、家庭での関係は良好であると考えられる。また「毎日、朝食を食べている」「家でのきまりや約束を守っている」「早寝早起きを心がけている」の質問に肯定的に回答した児童は、それぞれ95.0%、88.1%、80.0%と高い。児童の生活習慣についても、引き続き家庭と連携を図りながら、指導していきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」については、83.3%、「自分のもっている能力を十分に発揮したい」は88.3%、「人と話すことは楽しい」については、91.7%、「毎日の生活が充実していると感じている」については、81.7%と自分自身についての質問において肯定的回答の割合が県平均と比べて高い。児童を褒め、励ます教育の成果であると考え、今後とも、学校と家庭が連携して各自の成長を見守り、支援していきたい。

○学校での様子について、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスの決まりなどを決めている」「グループなどでの話し合いに自ら進んで参加している」「クラスの友達の間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」のいずれの質問の肯定率も、市や県の平均を上回っている。話し合い活動などを通して友達と支え合う力、対話力も身に付いていると思われる。引き続き授業で、グループ学習、ペア学習などの活動を入れるなど工夫をし、意欲をもって学習や活動に取り組めるよう指導していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」は56.7%、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」は60.0%と、どちらも県平均を下回っており、家庭学習力は身に付いているとは言えない。年度初めに実施した家庭学習についての指導「家庭学習の手引き」を再度確認し、家庭との連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう指導に努めたい。

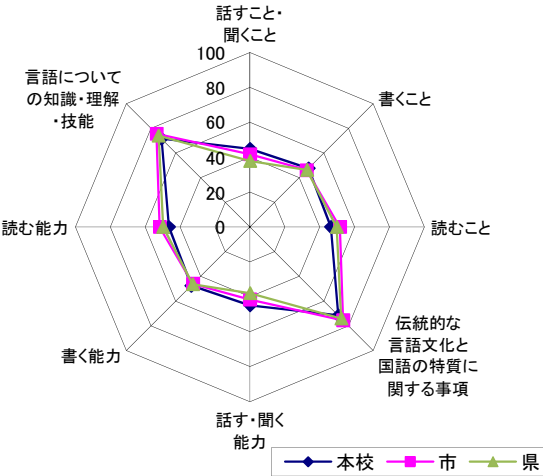
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という質問について、33.3%である。自ら学ぶ力が低いため、様々な学習にに対して、興味・関心をもてるような支援をしていきたい。

●「わからない国名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」の質問に肯定的に回答した児童は49.2%と低い。社会科の時間等を活用し、社会的事象に興味・関心をもてるように支援していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.8	41.6	37.9
	書くこと	47.5	46.1	46.3
	読むこと	46.4	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	44.8	41.6	37.9
	書く能力	47.5	46.1	46.3
	読む能力	46.4	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	71.6	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

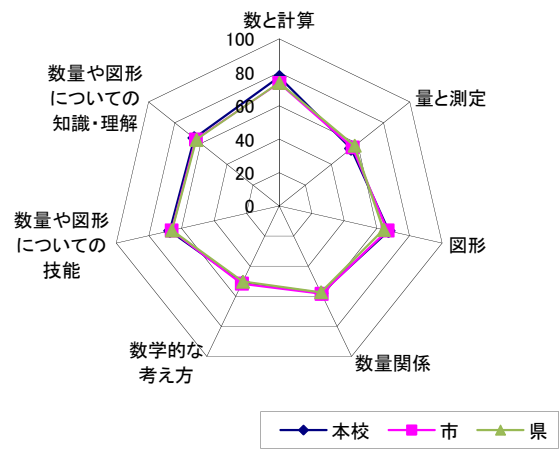
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率が44.8%で、県の平均を6.9ポイント上回った。 ○提案者の役割を問う問題、話し合いにおいて司会者の役割を問う問題の正答率が高くなった。授業だけではなく学級活動などで話し合い活動に積極的に取り組んでいる成果だと考える。 ●新たな案を提案し賛成された理由を問う問題で正答率が県の平均を0.5ポイント下回った。自分の考えを文で表すことに課題が見られる。	・授業中だけではなく、普段の生活の中でも話をしっかり聞く習慣を身に付けさせるよう、話を聞くことの大切さを引き続き指導していく。 ・授業や学級活動などで意図的に話し合い活動を取り入れ話し合いに慣れさせるとともに、自分の考えや相手の考えを書く活動も積極的に取り入れていく。
書くこと	平均正答率が47.5%で、県の平均をわずかに上回った。 ○必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択する問題の正答率が77.0%で県の正答率を6.9ポイント上回った。国語だけではなく他教科や学級活動で児童が進んで新聞を作成している経験が結果に表れたのだと考える。 ●学級新聞に付け足す文を記述する問題では、条件に合った記述ができなかった。また、無解答の割合も高くなっていることから、記述式の問題の答え方に課題が見られる。	・書くことに慣れるように、生活の中に積極的に書く活動を取り入れていく。 ・国語の授業の中で、自分の考えや教材文を読んだ感想などを書く活動を取り入れていく。 ・問題文の中から答えを正しく書き抜くために、教材文を正しく書き写す活動や読んだ本の好きな一文を書き写す活動などを取り入れていく。
読むこと	平均正答率が46.4%で、県の平均を3.3ポイント下回った。 ○段落相互の関係を押さえて読む問題の正答率が36.1%で県の正答率を2.8ポイント上回った。説明文を読む時に段落番号を付け、段落と段落のつながりを考えながら読み取る学習を続けた成果が表れたのだと考える。 ●登場人物の気持ちを想像して読む問題では、解答を選択する問題より、短答で書く問題の正答率が低くなっている。文中の言葉を正しく書き抜くことに課題が見られる。	・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。 ・家庭での読書活動を推進し、より多くの本に親しめるようにしていく。 ・説明文の読み取り方や序論・本論・結論などの基本的な構成について繰り返し指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が71.6%で、県の平均を2.4ポイント下回った。 ○熟語の読み問題とことわざの使い方の問題の正答率が95%以上と高くなっていた。漢字練習に継続して取り組んだり、ことわざ調べに興味をもって取り組んだりした成果が表れたのだと考える。 ●送り仮名が付く漢字の読み書き、主語と述語の関係の問題の正答率が県の正答率を下回っている。特に文法問題に大きな課題が見られる。	・漢字練習に引き続き取り組ませる。 ・漢字に送り仮名や読み仮名をつけて練習したり、熟語で練習したりする習慣を付けられるよう指導する。 ・主語・述語の関係を復習するとともに、主語・述語・修飾語について理解を深められるよう繰り返し練習していくよう指導する。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.3	73.6	73.7
	量と測定	55.1	56.2	57.7
	図形	67.2	66.5	64.2
	数量関係	58.0	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	50.8	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	67.2	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	65.1	64.0	63.5



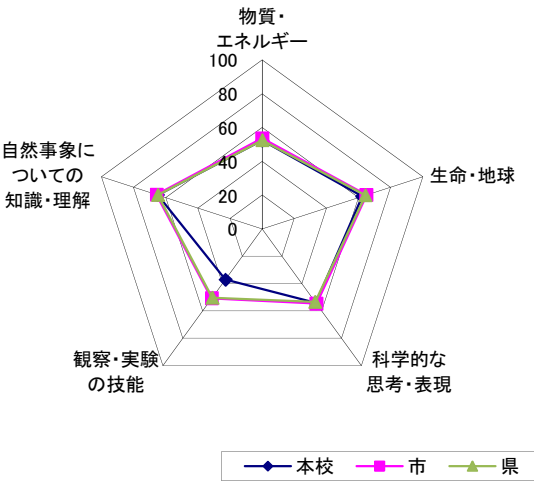
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が77.3%で県の平均を3.6ポイント上回った。 ○小数のかけ算の計算の正答率が88.5%、四捨五入して概数にする問題の正答率が91.8%で県の平均に比べ高くなっていた。朝の学習や宿題での積み重ねが結果に表れている。 ●小数のひき算(小数第2位ー小数第1位)の計算の正答率が低くなっていた。位のそろえ方の練習が必要だと思う。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き、朝の学習や宿題などで計算練習を継続して取り組ませていく。 ・小数の計算をするとき、小数点の位置を意識して解かせよう指導を徹底していく。
量と測定	平均正答率が55.1%で県の平均を2.6ポイント下回った。 ○図で示された角度の大きさの範囲を選ぶ問題では、県の正答率より高くなっていた。 ●およその面積を推測する問題の正答率が低くなっていた。広さを数値化することが不十分であることが考えられる。	・引き続き、朝の学習や宿題などで計算練習を継続して取り組ませていく。 ・面積の公式がなぜそうなるのかを理解させるために具体物などで提示し、広さのイメージを捉えられるような指導をし問題に取り組ませていく。
図形	平均正答率が67.2%で県の平均を3ポイント上回った。 ○ひし形の作図の続きをする問題では、県の正答率より高くなっていた。作図をするときの用具の使い方が身に付いてきていると考えられる。 ●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を答える問題は正答率が低かった。記述式ということもあるが、ひし形の定義を理解していないことが原因と思われる。	・作図に必要な用具を使う機会を多くし、技能の向上につながるようにする。 ・図形の定義を理解し定着させるために、復習問題を繰り返し取り組ませていく。
数量関係	平均正答率が58.0%で県の平均を0.5ポイント上回った。 ○二次元表を読み取り、対象の欄の表す意味を説明する問題では正答率が90.2%と県の平均と比べ高かった。表の読み取り方が身に付いていると考えられる。 ●折れ線グラフを読み取り、数値を比較する問題では、正答率が低かった。問題文を正しく読み取ることが不十分であり、正答につながらなかったと考えられる。	・日常生活の中でのできごとなどを、二次元表に取り入れ継続して取り組んでいく。 ・文章問題に取り組む機会を多くし、考える際にグラフなどを利用して解くことを増やしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.4	53.7	52.5
	生命・地球	62.3	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	54.2	54.7	53.4
	観察・実験の技能	37.1	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	65.0	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率が52.4%で県の平均を0.1ポイント下回った。 ○空気と水の性質の問題では、筒の中の空気を圧す際の手応えの変化についてよく理解しており、正答率が91.9%と高くなっていた。 ●電気の働きの問題で、電池の数やつなぎ方とモーターのまわり方を関係づける問題の正答率が低く、課題が見られる。	・知識・理解が不十分だった「金属・水・空気と温度」では、実験、観察を通し確認させる。 ・思考・表現については、知識・理解や実験観察とも関係が深いので、正確な実験を通して得られた正しい知識をもとに、自分の考えを表現できるよう指導する。
生命・地球	平均正答率が62.3%で県の平均を2ポイント下回った。 ○天気の様子の問題で、一日の気温の変化の様子からその日の天気を推測したり、天気の様子から一日の気温の変化を推測したりする問題の正答率が高かった。実際に興味をもって観察したことは、成果につながると思われる。 ●月と星では、星座早見板の持ち方や使い方の正答率が低く、課題がみられる。また、人の体のつくりと運動の問題では、腕を曲げた時の筋肉の様子や背中などが丸く曲げられる理由の正答率に課題が見られる。	・知識・理解が不十分な「季節と生き物」や「月や星」については、実際の生き物や星の観察をさせ、できるだけ本物に触れられるような機会を多く設定していく。 ・実験・観察の技能が不十分だった星座早見板の使い方は、一人一人に操作させ繰り返し指導して定着を図る。 ・思考・表現で正答率が低かった、人の体が丸く曲げられる理由については、「関節」の言葉の意味を指導し、自分の体で関節部分の確認させ、自分の言葉で説明できるようにさせる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には良いところがあると思う」と回答した児童の割合は91.8%で、県の平均と比べて13.9ポイント高い。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」児童の割合は93.4%で、県の平均とほぼ同じとなっている。学校では児童一人一人のよさを認め励ます教育を心掛け、自尊感情の育成に努めている成果であると考えられる。また家庭においても、自分は大切な存在だと思っていることが分かる。今後も家庭と連携を図りながら児童のよさを認め励ます指導をしていきたい。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う」と回答した児童の割合は100%で、県の平均と比べて3.0ポイント高い。また、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は98.4%で、県の平均と比べて8.5ポイント高くなっている。現在の努力が将来の夢や目標に向かっていくことをキャリア教育を通して知らせながら、児童の目標に向かう力を支援していきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」児童の割合が96.7%で、県の平均と比べて5.3ポイント高い。また「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」児童の割合が75.4%で、県の平均と比べて9.4ポイント高くなっている。このことから児童の学ぶ意欲が高いことが分かる。児童が興味・関心をもてる授業を工夫してきた成果だと考える。今後も児童が「勉強がおもしろい」と思える授業を実践していきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は90.2%で県の平均と比べて10.2ポイント高い。また、「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した児童の割合が90.2%で県の平均と比べて7.0ポイント高く、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていると思う」児童の割合は91.8%で県の平均と比べて13.1ポイント高い。児童は学級の中で自分の意見や考えを言うことができ、話し合い活動にも積極的に参加していることが分かる。学習活動の中に話し合い活動を意識的に取り入れた成果だと考える。今後も児童が発表しやすい雰囲気づくりに努め、話し合い活動の質を高めていきたい。

○「家で学校の宿題をしている」と回答した児童は100%で、県の平均と比べて2.6ポイント高い。宿題をやる習慣は身に付いてきたので、今後は自主学習にも取り組めるよう支援をしていきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した児童は57.4%で、県の平均と比べて12.8ポイント低い。また、「授業で使うノートには、学習の目標(ねらい・めあて)とまとめを書いている」と回答した児童は72.1%で、県の平均と比べて10ポイント低くなっている。授業の始めに本時のねらいを示し、最後に振り返りをする時間を確保し、この授業で何を学んだのかを児童が振り返ることができるよう、共通理解をしながら実践していきたい。

●平日の家庭学習時間が1時間未満と回答した児童の割合が49.2%で、県の平均と比べて4ポイント低い。また、休日の家庭学習時間が1時間未満の児童の割合が62.3%で、県の平均と比べて7ポイントと上回っている。その中でも休日に全く学習しない児童が9.8%いることが大きな課題だと思われる。家庭学習の時間や方法について学校で指導するとともに、家庭と連携を図りながら1時間以上の家庭学習に取り組めるように指導していきたい。

●平日のテレビを見る時間が3時間以上と回答した児童の割合が37.7%で、県の平均と比べると5.4ポイント上回っている。4時間以上見ている児童も18.0%みられる。テレビを見る時間が多くなると、学習時間や読書時間が減ってしまうので、帰宅後の時間の使い方について学級活動などで指導するとともに、家庭と連携を図りながら改善していきたい。